

第3期 阪神北地域ビジョン委員会 活動報告書

平成19年(2007年)3月
発行:阪神北地域ビジョン委員会
編集:阪神北地域ビジョン委員会広報部会
http://web.pref.hyogo.jp/area/n_hanshin/vision.html

ごあいさつ

この阪神北地域を夢と希望に溢れた地域とするため、「私たちの地域は私たちでつくる」という意識を持って委員100余人が取り組んだこの2年間の活動をまとめましたので、是非ご覧ください。

今、私は達成感と充実感でいっぱいです。これも委員の皆さんの活発な活動のおかげです。本当にお疲れ様でした。皆さんが活動で得た成果と人と人とのつながりを地域で生かし、ご活躍されることを祈念します。最後に、「出会えてよかった!あなた」と実感しております。

第3期阪神北地域ビジョン委員会委員長代理 中川 勝子

目次

- ・あいさつ……………1
- ・シンボルプロジェクト…………… 2・3
- ・県民行動プログラム…………… 4~15
- ・地域夢会議等…………… 16・17
- ・広報部会…………… 18
- ・総会・企画調整部会…………… 19
- ・専門委員等メッセージ…………… 19
- ・委員名簿…………… 20

「みんなでつくる活力あふれる潤いの生活空間」をめざして

阪神北地域ビジョン委員会は、兵庫県知事の委嘱を受けた委員により構成され、「自律的な市民の参画と協働により新しい公の領域を築く」を基本理念に、ライフスタイル・コミュニティ・都市環境・阪神経済の4分野に11の活動グループと広報部会が県民の立場で地域づくり活動を行っています。

1 推進グループ

- 実行委員会 企画調整部会
- 企画提案委員会 夢と希望のしくみづくりグループ

2 目標

- (1) 団塊の世代を中心とした潜在的な地域活動の担い手の発掘
- (2) 地域の一体感の高揚や地域に対する愛着心の醸成

3 取り組み内容

【地域見本市「地域ってこんなところよ、お父さん！」
～知ろう、創ろう我がまちの魅力～を開催】

(1) 趣 旨

自らの住む地域の良さ、地域の人と人のつながりの大切さの再発見を通じて、地域への愛着を高め、地域課題に主体的に対応する潜在的な地域活動の担い手を発掘し、地域づくり活動に誘導する。また、阪神北地域の参画と協働による地域づくりのシンボルプロジェクトとして実施する。

(2) 開催日 平成18年11月23日

(3) 場 所 アステ川西
(6階アステホール、5階コンパス80)

(4) 内 容

①シンポジウム

i) パネルディスカッション:「地域ってこんなところよ、お父さん！」

過去の経験上、パネリストを多くすると時間的に掘り下げた話にならないため、パネリストを3人と少数にし、年齢層を分けて討議内容の集約化に努めた。

ii) 講 演 : 「肩書きをはずした時～あなたに何が出来ますか?～」

講師:堀田 力氏

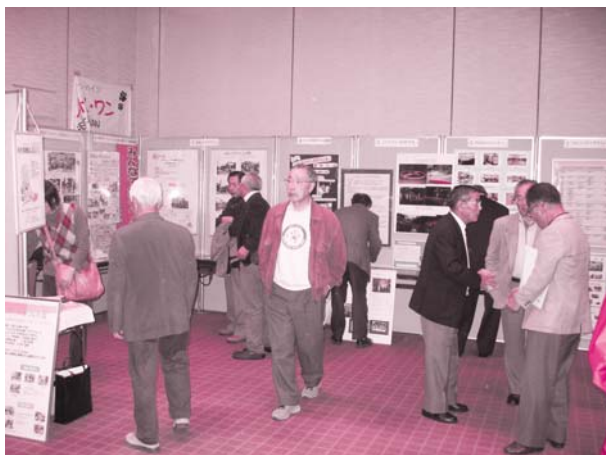
(弁護士、さわやか福祉財団理事長)

②地域見本市

○阪神北地域の自然・文化・歴史の魅力紹介
(名所、特産物、歴史・文化の紹介)

○阪神北地域の市民生活の魅力紹介

(まちづくり活動、市民生活・人づくり・福祉・環境関連の地域活動、生きがいくくり施策)の紹介



4 取り組みの成果

事業を実施するに当たり、“画期的で記憶に残る行事にしたいなー”と関係者の思いは一緒だった。地域活動にとって人材は不可欠のもの。退職を迎える団塊の世代を地域活動の担い手として確保する好機でもある。これらの人々をはじめ、多くの人に興味を持っていただく行事を目指した。

(1) 実施主体について

参画と協働の地域づくりのシンボルプロジェクトとして、この地域の市民と行政が一体となって取り組むため、4市1町に共催いただき協力を得ることができた。

(2) 参加者・参加団体について

各地各方面で活躍されている多くの地域活動団体に活動状況を展示していただき、多くの方々に発信するとともに、活動団体間の交流を図り相互に学習する機会をつくり、盛会に終えることができた。

①参加団体 58団体

(伊丹市5団体、宝塚市10団体、川西市13団体、三田市11団体、猪名川町4団体、ビジョン委員会5グループ、広域団体・行政等10団体)

各地で多彩な地域活動が行われているが、その中から参加団体を選出するのは大変である。そこで、各市町や各市町社会福祉協議会、NPO法人の中間支援組織などに協力を得るなど、徐々に理解が得られて多くの団体に参加いただくこととなり、嬉しい悲鳴であった。当初は、地域団体の協力が得られるか危惧したが、4市1町を丹念に回り協力を仰ぐと、比較的多くの協力者が集まるものと自信を深めた。

～人が出会えば、地域が動く～ を実施

②参加者 約320人

最も気になったことであるが、約320人が参加し、大成功だった。また、5階会場への人の流れも心配されたが、常に大勢の観客を迎えることができた。

県・各市町の広報誌やミニコミ紙などへの記事掲載、駅貼りポスターなどいろいろな方法を試みた。特に、地域ビジョン委員会だより“夢じゃーなる”による行事案内記事や、実施当日の会場周辺による行事案内など、広報部会による広報活動は大変効果があったと思う。

(3) 内容について

①パネルディスカッション

地域活動の運営ややりがいについて参考となる内容であった。

②講演

来場者の興味をひく非常にわかりやすい内容であった。



③地域見本市

開始一番のプログラム「小ステージ」では、川西市のコミュニティによる地域にまつわる“紙芝居”と三田市のボランティアによる“腹話術”で、笑いと歓声が充満し、行事を盛り上げた。

また、“多田銀山”や“木喰上人作像”、木の実や枝を使った“自然工作”、“小浜宿のカルタや同宿の表示板”など、パネル・展示品・パソコン・パンフレット等による多彩な出展内容で、参加団体の各地域での活躍がわかる内容であった。

さらに、地域の名産「イチジク」を使った手作り菓子や地域産品の試食・試飲なども好評であった。



(4) 総括

当日会場で実施したアンケート結果(回答者47人)によると、パネルディスカッションでは75%の人が、良かった、またはどちらかと言うと良かったと回答し、好評であった。

心配していた参加者数も会場を埋め尽くすほどの来場があり、熱心に行事に参加していただいていた非常に良かった。参加団体からは、「このような場(自分たちの活動紹介、他団体の活動を見て学ぶ、他団体との交流)が欲しかった」「参加してよかった」との声があり、継続して実施する必要性を感じた。

実施準備および当日の関係者による秩序ある行動と努力の結集により、今後のビジョン委員会の活動に大きな成果が記録されたことを自負する。

5 課題と課題解決に向けた取り組み方策

多くの参加者があったが、地域活動をされていない人にももっと来ていただき、地域について知って欲しかった。また、出展者同士のコミュニケーションを図る時間をもっと取る必要があった。

地域見本市への参加団体の多くはこのような場を望んでいると思われるので、それを今後への糧として今回の事業を継続していきたい。そして、今回は参加できなかった方・団体にも参加を呼びかけていきたい。

(夢と希望のしくみづくりグループ代表 嶋貫 孝弘)

〈プログラム1〉 多世代交流でふれあえるまちづくりを進める

1 推進グループ 多世代交流グループ

2 具体的な目標

世代間交流の活発化を図るため、継続的で面白い具体的方向性をもったテーマを見だし、世代間交流活動を促進する。

3 取り組み内容

内 容	実 施 日 ・ 実 施 場 所
多世代交流についてのアンケート調査	団塊世代以上の方々を対象に調査(回答数: 2 4 5) ① 平成17年10月15・16日(みんなの夢会議:兵庫県公館) ② 平成17年11月13日(第1回夢会議:ぶらざこむ1) ③ 平成17年10月から11月(地域で活動に参加されている方を対象)
	現役世代を対象に調査(回答数: 5 4 2) 平成18年6月から7月(阪神北地域内事業所・勤労者・学生・子育て世代等々)
多世代交流についての討論会	夢会議参加者との討論会 平成17年11月13日(ぶらざこむ1) テーマ:地域活動について
	学生との討論会 平成18年10月19日(大手前大学) テーマ:① 多世代交流のイメージについて ② いきいきとした豊かな地域づくりを行うためには
勉強会	① 地域活動事例の紹介 平成18年3月26日(宝塚市男女共同参画センター・エル) 講師:佐々木 基文氏(真言宗西光院住職) ② 安全安心まちづくり 平成18年6月20日(阪神北県民局 会議室) 講師:宮川 勝芳氏(猪名川町 生活安全アドバイザー) ③ ブラジル人から見た日本人像、世代間交流 平成18年7月18日(阪神北県民局 会議室) 講師:川村 栄太郎氏(三田市 地域のサロン主宰)
多世代交流会 (第1分野合同企画)	第1分野の県民行動プログラムを体験する機会の演出 平成19年1月28日(ピピアめふ(宝塚市))(17ページを参照ください)

4 取り組みの成果

- 多世代交流についてのアンケート調査からは、世代交流の拠点となる場所や世話役・リーダーの育成などの必要性や交流に対する意識の差も浮き彫りになった。(例えば、「気を使うのが煩わしい」、「活動のペースが合わないから」等)
- 多世代交流についての討論会からは、活動の経験に基づき、ふれあい活動の必要性、課題が共有できたこと、学生との討論会からは、多世代交流は、難しいことではなく身近なものであることが理解されたことに加え、学生サークルの活用と学校施設の活用などが提案された。



- 勉強会からは、講師の表現は違うものの「まずは、やってみることから始め、理解されることが大切」であることを学び、多世代交流を推進する上での原点であることが確認できた。
- 第1分野合同企画からは、3世代老若男女が集い多世代交流の場が演出できた。イベントも会場毎に多世代交流が活発に行われた。討論会“今、あなたが感じている思いを語る”では、活発な意見交換が行われ、世代差はあっても話し合うことにより共感、共有できることが確認できた。

5 課題と課題解決に向けた取り組み方策

- アンケート調査から得られた課題の実態を把握する作業と解決策の提案。
- いつでも三世代が集える場と交流種目の多様性を図り、一人ひとりが信頼し合え、安全で安心して住めるまちづくりに役立つ多世代交流活動を提案したい。

(多世代交流グループ代表 八木下 栄一)

〈プログラム2〉 多世代で楽しくのびのびと子育てしやすい環境をつくる

1 推進グループ のびのび子育てサポートグループ

2 具体的な目標

「多世代で子育て」を目標に、子育て中の保護者をサポートするための環境をつくる。

3 取り組み内容

(1) 現状把握

「多世代で子育て」を具体的な目標に掲げ、まずは学習しようと4市1町の子育て支援現状把握に出かけた。

(2) 子育て支援の状況・あり方を考える意見交換会等の開催



① 講演会		
と き:平成18年3月27日	ところ:宝塚商工会議所	
テーマ:子どもの声はずむ街	参加者:約30人	
講師:小泉雅子氏(三田市在住。NPO法人保育ネットワーク・ミルク代表) 今なぜ子育て支援が必要かを具体例でわかりやすく話された。		
② パネルディスカッション		
と き:平成18年6月29日	ところ:川西市多田グリーンハイツ第1自治会館	
テーマ:語ろう!子育て昔と今!	参加者:約30人	
内 容:多世代の男女4人の発表者による各々の地域に根ざした活動報告と、参加者全員によるフリートーク		
③ グループ討議		
と き:平成18年11月13日	ところ:三田市総合福祉保健センター	
テーマ:子育て・子育て支援 本音でトーク!	参加者:約60人	
内 容:三田市、三田市老人クラブ連合会との共催により開催。5つのグループに分かれてフリートーク		

(3) 多世代交流会(第1分野合同企画)の開催 (17ページを参照ください)

と き:平成19年1月28日 ところ:ピピアめふ(宝塚市)
テーマ:“英語で遊ぼう”(大手前大学ESLの皆さんのリード)

4 取り組みの成果

(1) 現状把握

各地域とも素晴らしい取り組みをされていたが、それでも悩める人たちがおられる事実をしっかり受けとめ、私たちに可能な活動から…と仲間と和を温めながら語り合った。

(2) 子育て支援の状況・あり方を考える意見交換会等の開催

- ①講演会:参加者の中には大学生グループの人たちもいて活発な意見交換ができた。
- ②パネルディスカッション:親子での参加があり、「違うよ、お母さん…」とほほえましい場面も。まさに今昔の感があり、活発な意見交換ができた。



③グループ討議:実に多世代の参加者。アンケート回収率はほぼ100%。そのほとんどが、“時間が足りなかった”“次回につなげてほしい”。会終了後もしばし席を立つ人はなく、思いの深さが感じられた。

これら活動を通して、少しずつ子育て支援の小さな種まきができたようにも自負し、多世代で話し合える場の提供の重要性を確認しあった。

(3) 多世代交流会(第1分野合同主催)の開催

子どもたちと楽しく心ふれあい、彼らの放つ純粋性と可能性に改めて驚嘆。このすばらしき子どもが“地域のかすがい”となるよう多世代での子育て支援の必要性を今後も発信し続けたい。

5 課題と課題解決に向けた取り組み方策

核家族のマンション生活。四六時中子どもと離れられない母親たち。ささやかな不安も相談できる人がなく、大きな悩みとなる、そんな人たちへの支援が重要課題。やはり、近隣の人たちのさりげなく温かい支援、協力こそが鍵と話し合った。この活動の継続を願ってやまない。

そんな熱き想いを小さなリーフレットに詰め込んで制作した。

(のびのび子育てサポートグループ副代表 塚本 洋子)

〈プログラム3〉メイクにより、いきいき元気な人づくりを進める

1 推進グループ いきいきメイクグループ

2 具体的な目標

いきいきと元気なライフスタイルを育む社会をつくるため、メイクという方法を使い、高齢者・障害者・育児中の方ら男女年齢を問わずに、「顔を上げて元気になりましょう！」と呼びかけていく。

3 取り組み内容

＜平成17年度＞

・7月～9月

メイクグループのスタッフ同士で勉強会を実施(5回)

・8月10日

三田市広野市民センターにて高齢者対象のメイクを学ぶ会実施
高齢者:約30人参加

・9月27日

伊丹市高齢者施設「オアシス千歳」にてメイクボランティア訪問
高齢者:約15人参加



・2月18日、3月1日

三田市高齢者施設「さんすい園」にてメイクを学ぶ会実施
高齢者:延べ約20人参加(各自練習)

＜平成18年度＞

・4月24日、6月5日、10月23日

三田市高齢者施設「さんすい園」にてメイクを学ぶ会実施
高齢者:延べ約30人参加(各自練習)

・9月10日

伊丹市高齢者施設「ゆうあい」にてメイクを学ぶ会実施
高齢者及びその家族、施設スタッフ:約50人参加

・1月28日

多世代交流会(第1分野合同企画)にてメイクを学ぶ会実施(ピピアめふ(宝塚市))
子育て中の若い母親と男性:27人参加(各自練習)(17ページを参照ください)



4 取り組みの成果

どの施設に行ってもお化粧で変化していくと、笑顔になってもらえ、取り組みとしては成功だったと考えている。

女性だけではなく「身だしなみ」という内容で男性も参加できた。



5 課題と課題解決に向けた取り組み方策

メイクを学ぶ会の参加者の中には、自分でメイクができない人もおられたので、「心のメイク」を心がけ、輪を広げていった。

(いきいきメイクグループ代表 みき しほ)

〈プログラム4〉 高齢者・障害者が明るく楽しく健やかに幸せに“健幸”づくりを進める



1 推進グループ 明るく楽しく健幸創りグループ

2 具体的な目標

高齢者・障害者が明るく楽しく健やかに幸せになるよう、出前県民演芸団をつくるなどにより明るく楽しいサロンづくりを提案する。

3 取り組み内容

出前県民演芸団「はじまるよ〜」の公演をそれぞれの地元ボランティアサークルのご協力で、下記のとおり実施した。

とき・ところ	参加者	演 目	内 容
H18.3.26 伊丹市障害者福祉施設「アイ愛センター」	100 余人	唄・新舞踊、銭太鼓、大道芸 (南京玉すだれ・血回し)、 落語、長生き体操	車いすも入れるフロアと座敷のある大広間で、高齢者・障害者の方々が血回し体験コーナーにも参加され、笑顔と拍手を頂き、良いスタートができた。
H18.6.3 宝塚市男女共同参画センター	80余人	元気の出るお話とにこにこ体操、琴の演奏、なつかしい唄(童謡集)、落語、津軽三味線	お話と座ってできるリラックス体操、そして琴と津軽三味線の楽器を加えて会場いっぱいに響きわたる演奏を楽しんで頂いた。
H18.9.15 川西市知的障害者授産施設「小戸作業所」	50余人	大道芸(南京玉すだれ・手品、踊り、血回し)	1グループで多彩な演目を準備頂いた。利用者の座席の中へ入っての手品。また、血回しでは、ほとんどの利用者が血回しに挑戦し、日頃見られない動きや表情で一瞬懸命の姿に職員の方もびっくりされていた。
H18.9.30 川西市久代デイサービスセンター	50余人	マンドリンギター演奏、詩吟・剣舞、和太鼓	食堂を開放して頂き、ほとんどの方が車いすで鑑賞されていたが、一緒になって参加頂いた和太鼓では立ち上がってリズムに合わせながら体を揺さぶり力いっぱいたたいて笑顔が溢れていた。機能訓練のリハビリでは見られない表情で満足されていた。
H18.11.10 知的障害者授産施設三田「わくわく村」	70余人	大正琴演奏、声楽・歌、腹話術・手品・血回し、新舞踊・唄、フルート演奏	授産施設では二度目の公演。一緒になって歌い、血回しでの動きや表情が笑顔であふれ、ご家族のみなさんも明るく、生き生きとした表情が印象的だった。
H19.3.6 猪名川町ゆうあいセンター	50余人	大道芸(南京玉すだれ、血回し、手品等)、舞踊・唄	デイサービスに来られた高齢者のみなさんの笑顔を見たくて開催。楽しい春を届けられて、桜より一足先に笑顔が満開でした。

4 取り組みの成果

障害者施設、高齢者施設などを利用しての出前県民演芸団「はじまるよ〜」公演を通じて、心と体のふれあいをじかに感じ、めざす目標である「高齢者・障害者とのコミュニティづくり」に一步でも近づけたと思う。

また、ボランティアサークルの交流の場を広げて、施設との関わりをつないだこともビジョン活動として成果があったと思う。



5 課題と課題解決に向けた取り組み方策

各施設では、このような訪問を待ち望んでおられるのではないだろうか。授産施設での作業やデイサービスセンターでの機能訓練の中ではあまり見られない笑顔や楽しい表情を拝見して、これからも「コミュニティづくり」につながる出前演芸団の出動が不可欠と思われる。

しかし、ボランティアサークルでは、活動領域に限界がある。地域で活動されている地元サークルの発掘も必要と思われる。

「継続は、力なり」の言葉にあるように、後続の演芸団の活動に期待したい。

(明るく楽しく健幸創りグループ代表 瀧上 トヨ子)

〈プログラム5〉 “食”と“音楽”と“紙芝居”を通じて地域間、世代間交流を進める

1 推進グループ ニコニコ水曜会

2 具体的な目標

地域間、世代間交流の活性化をめざし、老若男女が温かい心の通った交流を図るため、各地域の特性を生かしたさまざまな活動の輪を拡大する。

3 取り組み内容



とき	ところ	参加者	演目	内容
① H17.11.27	川西市東谷コミュニティ文化祭	約100人	紙芝居、フルート演奏	文化祭の雰囲気盛り上げに協力できた。
② H18.3.13	中山寺(絵馬堂)(宝塚市)	約180人	紙芝居、フルート演奏、童話朗読、コーラス	多地域・多世代の人々で温かく楽しい交流が図れた。
③ H18.11.26	川西市東谷コミュニティ文化祭	約100人	紙芝居、フルート演奏	地域の温かい人の交流に役立った。
④ H18.12.3	伊丹市立女性・児童センター「もちつき会」	約1,000人	フルート演奏、童話朗読、紙芝居、大道芸、コーラス	地域の子供たちの健全育成に貢献したと、主催者から評価された。



4 取り組みの成果

4市1町の地域の催しに共催あるいは協賛参加して多世代の人々と一体となった楽しい行事を行い、温かい人づくり地域づくりに貢献できた。

5 課題と課題解決に向けた取り組み方策

芋掘りや料理教室など“食”を通じての交流を計画していたが、準備不足のため実施できなかった。今後実施するために、問題点をどのように解決するか、よく研究し討議する。

(ニコニコ水曜会代表 谷口 義郎)



〈プログラム6〉 多くの住民参加によりコミュニティを活性化する

1 推進グループ 夢と希望のしくみづくりグループ

2 具体的な目標

コミュニティの活性化を図るため、各市、町のコミュニティ、自治会、各種団体活動などを通して、今地域で何が求められているかを検証し、各々のまちづくり活動に生かしてもらおうしくみを提案する。

3 取り組み内容

(1) 地域の実情を検証

アンケートを実施し実情を把握するとともに、まちづくりにおける重要課題である「人」「金」「もの」「情報」について掘り下げ、具体的な対策について今後考えていかねばならないということになった。

(2) 各種団体による会合の開催

平成17年11月26日

我々グループメンバーは、川西市多田グリーンハイツでコミュニティ活動の一環として行われた豆腐づくりを見学した。

(3) コミュニティ構成員が全員で活動できる場の創造

①第2回夢会議の開催

テーマ「こどもと元気に遊べるまち」～大人が楽しめば、地域が動き出す！～

②シンボルプロジェクト「地域見本市」の開催

テーマ「地域ってこんなところよ、お父さん！」～知ろう、創ろう我がまちの魅力～

(4) 家庭のあるべき姿を考え、地域として何ができるかを考える

①家庭教育 ②学校教育 ③地域教育の必要性を認識し実践する。



4 取り組みの成果

「まちづくり活動に活かしてもらおうしくみを提案する」という大きな目標を持ちながら活動する中で、多くの人たちが自分たちのまちを自分たちで良くするために多種多様な活動をされていることを学んだ。

5 課題と課題解決に向けた取り組み方策

いろいろな事件が起こっている現在、地域コミュニティに期待するものは大変大きくなっている。一人の力、一つの団体の力より、それぞれをつないでより多くの力を集結して美しいまち、誇れるまちを創っていく必要がある。ビジョン委員会では～あなたと出会えて本当に良かった！～のスローガンのもと、この「つなぐ」という役割を担うとともに、これから会社を卒業され地域に帰ってくる団塊の世代の方々の活躍の場をつくっていかねばならないと思う。

また、家庭は子どもたちにとって最初の教育の場であり、親は最初の先生だ。礼儀作法等の躰の原点は家庭だが、残念ながらそれも満足に行えていないのが現状と思われる。核家族化、少子化、夫婦共稼ぎが要因の一端であるならば、これからは地域として何をなすべきかを考えていく必要があるだろう。

「参画と協働」を皆で実践できるしくみづくりを、今後も考えていかねばならない。

(夢と希望のしくみづくりグループ代表 嶋貫 孝弘)



〈プログラム7〉 水循環の仕組みを知り、水を大切にする

1 推進グループ 水グループ

2 具体的な目標

水資源の大切さを普及するため、水マップの作成やエコバスによる交流などにより利水、治水(災害)、親水などを啓発する。

3 取り組み内容

(1) マップ作成

テーマ: “武庫・猪名川流域の水の歴史探訪”

前期作成した河川マップも好評を得たが、多色刷りへのメンバーの強いこだわりにより、少ない予算のハードルをグループ員全員と事務局の協力も得て諸問題を克服、マップを完成させた。

(2) 武庫・猪名両河川エコ・バスツアーの運行

＊武庫川流域

実施日 平成18年3月16日

参加人数 40人

見学・講座場所

三田・日出坂洗堰、県立人と自然の博物館(講座)、キリンビール神戸工場、武庫川上流浄化センター

＊猪名川流域

実施日 平成18年7月4日

参加人数 30人

見学・講座場所

県営・多田浄水場、猪名川町・ふるさと館(講座)、猪名川源流域、一庫ダム(講座)、豊中・原田下水処理場

(3) 川西・寺畑前川洪水対策貯水池の工事現場見学

実施日 平成18年10月17日

参加人数 10人

概要 国交省の研究所で開発された技術で造られた、深さ40m、25m・6レーンのプール65個分の国内最大の容量を持つ洪水用貯水池。この土木工事現場はほとんど無人で、オペレーターだけが離れた場所で操作。またと無い見学機会で、驚嘆の一言だった。



日出坂 洗堰



一庫ダム

(4) こどもと地域の環境会議への参画

啓発用パネル製作・展示作業と、クイズ数問を担当し、この会議を第3分野各グループと一緒に企画運営した。

(5) 川にまつわる講座の実施

実施日 平成19年3月15日

概要 県民局土木関係職員を講師に、武庫川、猪名川の両河川を主とした川にまつわる講座を実施した。

4 取り組みの成果

グループ発足の当初より具体的な行動目標として、①管内を流れる武庫川・猪名川両河川を取巻く川にまつわるマップ製作、完成時期は期末を目途とする②エコバスの実施③こどもと地域の環境会議への参加、を目標とした。限られた予算枠と人員の中で、所期の「水の循環への関心の喚起」、「水は命の源との想い」という目的を十二分に達成できたと自負している。

5 課題と課題解決に向けた取り組み方策

グループ活動への市民の参加が比較的少なかったため、より多くの市民の参加を得て活動を広め、水資源の大切さを啓蒙していく必要がある。

(水グループ代表 西村 茂)

〈プログラム8〉 緑を知り、緑を育てる

1 推進グループ 身近な緑を語り隊!

2 具体的な目標

“緑を育てる人を育てる活動”の運動底辺を広げるため、公園・学校・街路などの樹木にその樹木の情報が瞬時にわかる2次元コード※を織り込んだQRカードを掲示することによって、市民が緑に親しむ機会をつくる。 ※携帯電話のバーコードリーダーで、その情報を読み取る。

3 取り組み内容

- (1) 「この木なんの木QRカード」の作成方法、デザイン等について検討した。
- (2) イベント参加公園3箇所で樹木の予備調査を実施した。
- (3) 緑化イベントに参加し、作成した「QRカード」を公園等の樹木に掲示。市民の感想を聞き取るとともに「QRカード」を使用した森のクイズを実施した。
 - ＜参加した主なイベント＞
 - ・「緑の木陰の勉強会」(平成17年12月11日、宝塚市・雲雀丘山手公園)
 - ・「花と緑のフェスティバル」(平成18年4月29・30日、宝塚市・末広中央公園)
 - ・「ありまふじフェスティバル」(平成18年10月21・22日、三田市・県立有馬富士公園)
 - ・「秋の花と緑を愛でる会」(平成18年10月25日、加西市・県立フラワーセンター)
 - ・「森林と市民を結ぶ全国の集い」(平成18年11月11日、大阪市)
- (4) QRカードの普及・活用を図るため4市1町、2公園など9団体にQRカードを寄贈した。さらに今後の普及活動に使用するため、ビジョン委員等へ配布した。

4 取り組みの成果

- (1) QRカード作成、現地調査、イベント参加等の場で、グループ委員間で大いに身近な緑を語り合うことができた。
- (2) 各地のイベント会場で、若者、ファミリー等多くの市民にQRカードを通じて緑、樹木に親しみ興味を持っていただき、グループ活動の目的は達成できた。

5 課題と課題解決に向けた取り組み方策

- (1) QRカード掲示のグループ活動は、自力でのイベントの開催が難しく、県・市・団体等の緑・森林に関わるイベント等に参加させていただき行った。今後、公園・森林等において寄贈させ

この木なんの木 QRカード

サザンカ(山茶花)

もっと詳しくは
携帯電話の
バーコードリーダー
で見てね



作成・阪神北地域ビジョン委員会
身近な緑を語り隊!



イベントでの説明



森のクイズを楽しむファミリー

ていただいたQRカードの活用、普及が行われるように、公園管理者、団体をお願いしたい。

- (2) 当初、QRカードの機能を高め、研究機関等とインターネットで結ぶことにより、さらに詳しい緑の情報を読取ることができるようにと考えたが、むしろ市民が気軽に野外で携帯電話機から得る情報は本カード程度が適していると考えた。

なお、QRコードはQUEL project社のHPで作成させていただき、樹木写真は「植物園によるこそ」青木繁伸様のHPから使わせていただいた。厚く御礼申し上げます。また「QRコードは(株)デンソーウェーブの登録商標です」を申し添えさせていただきます。

(身近な緑を語り隊! 代表 一樹 洋彦)

〈プログラム9〉 ゴミの減量・省エネに取り組む

1 推進グループ 都市環境(ゴミ問題・地球温暖化防止)グループ

2 具体的な目標

自然と共生し、環境との調和が図られ、持続可能な地球を次世代にバトンタッチするため、環境家計簿の普及啓発など、家庭ゴミ問題・地球温暖化防止の啓蒙活動を実施する。

[ゴミ問題の目標]

使い捨て・焼却から資源を循環(リサイクル)する社会へ転換。

[地球温暖化防止の目標]

当面は京都議定書の目標をクリアする。
(温室ガスを基準年度のそれより6%減らす)

3 取り組み内容

上記の啓蒙活動はビジョン委員会主催の「こどもと地域の環境会議」「夢会議」などの場を活用して実行するように努めた。

(1) こどもと地域の環境会議

①平成17年11月27日

「環境家計簿記入モデルのパネル」展示を行った。

②平成18年12月10日

「楽しく学べる環境学習」

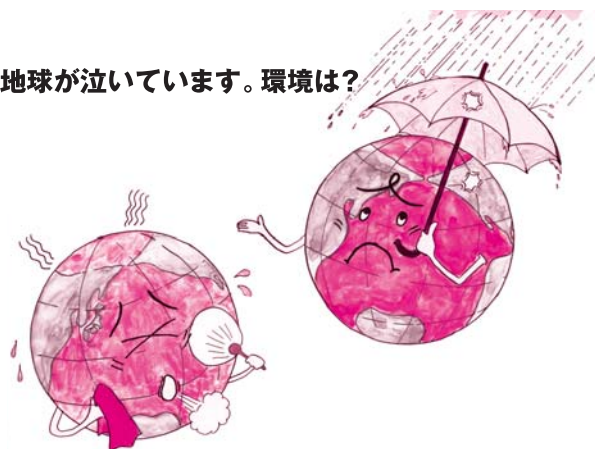
当グループが、第3分野の他のグループや県民局の協力を得て、企画・編成・進行を担当した。このプログラムにおいて、次世代を担う小・中学生を含む180人に対し活動目標にマッチした環境学習を実施した。また、このプログラムのクイズ正解者90人に「エコタップ」を配布し、家庭の待機電力減少に活用してもらうこととした。

「パネル展示クイズラリー」

パネル展示を行うとともに、ビデオ「地球と二酸化炭素」を放映した。各展示コーナーでラリー参加者に説明を行い、小・中学生との対話や交流を図りつつ環境学習活動を行った。

参加者全員に「こどもエコチェック手帳」を配布し、こども版環境家計簿の普及に努めた。

地球が泣いています。環境は？



(2) アンケート実施と環境家計簿普及への取り組み

①第1回夢会議(平成17年11月13日)

環境に関するアンケートを実施し、66人から回答を得た。

②第2回夢会議(平成18年2月26日)

前回のアンケートの結果を踏まえて「**環境家計簿&家庭でのエコライフチェックリスト**」を250部作成、第2回夢会議ほかで配布し、環境家計簿の普及に努めた。

(3) チーム・マイナス6%加入と省資源・省エネルギーの実践

当グループ自体で環境省のチーム・マイナス6%に加入し、メンバー自身が率先して省資源・省エネルギーの実践に取り組んだ。

4 取り組みの成果

「こどもと地域の環境会議」や「夢会議」などで、地域の人々に目標に沿った一定の環境啓蒙活動ができた。また、グループでの環境学習や調査活動で各自の知識が向上し、エコライフの実践に結びついた。

5 課題と課題解決に向けた取り組み方策

ビジョン委員会としての地域住民(大人)を対象にした啓蒙活動をいかにしていくかが課題である。

(都市環境グループ代表 田中 寛)

〈プログラム10〉 地域の環境を考える次代を担う子どもたちを育む

1 推進グループ

- 実行グループ 水グループ、身近な緑を語り隊！、都市環境(ゴミ問題・地球温暖化防止)グループ
- 企画提案グループ 都市環境グループ

2 具体的な目標

次代を担う子ども、青少年たちに環境の大切さを知ってもらうため、「こどもと地域の環境会議」の開催などにより、地域の環境を考える場を提供する。

3 取り組み内容

「こどもと地域の環境会議」を開催

- 開催日 平成18年12月10日
- 場所 アステホール(アステ川西6階)
- テーマ 阪神北から未来へのメッセージ
- 参加人数 180人
- 主催 阪神北地域ビジョン委員会、新さわやかな環境づくり阪神北地域行動計画推進会議、財団法人ひょうご環境創造協会、兵庫県阪神北県民局



当日のプログラム

プログラム名	内 容	進 行
第1部 楽しく学べる環境学習		ビジョン委員会
電子紙芝居 九頭龍伝説	猪名川と源満仲	多田小学校区コミュニティ推進協議会
環境のお話	川・森・地球環境	ビジョン委員会
阪神北こども環境クイズ	ビンゴゲーム	同 上
展示ラナー	環境啓蒙パネル ビデオ「地球と二酸化炭素」	ビジョン委員会等地域12環境団体
第2部 阪神北こどもエコ探検隊 活動発表と意見交換	〈発表テーマ〉	総合コメンテーター 兵庫県立大学教授 中瀬勲氏
水の循環を探ろう！	水の循環 節水	伊丹市立鴻池小学校
里山を知ろう！	里山での活動調査	三田市立藍中学校野外活動部
エコライフを始めよう！	省エネ・リサイクル活動	猪名川町立猪名川中学校科学部
五感を使って自然を体験！	ネイチャーゲーム	鴻池エコクラブ(伊丹市)
地球をクールダウンしよう！	ヒートアイランド現象調査と対策	伊丹市立北中学校理科部

4 取り組みの成果

- (1) 小・中学生を主に180人の参加者に対して、第3分野各グループの活動テーマに沿った環境メッセージを伝え、参加者との交流を図り、環境全般の学習活動・啓蒙ができた。これにより阪神北ビジョン委員会自体のアピールもできた。
- (2) 第3分野各グループ間、地元のコミュニティ団体、地域の他の環境団体、阪神北県民局とのコラボレーションが実現できた。
- (3) こどもエコチェック手帳、エコタップ、環境マークかるたを配布して、家庭でのエコライフ継続をサポートした。

5 課題と課題解決に向けた取り組み方策

「こどもと地域の環境会議」について、ビジョン委員会として今後とも“次世代への重要な環境学習イベント”という位置づけをし、より幅広いコラボレーションにより実施されることを願うとともに、第4期ビジョン委員会と県民局との推進体制を早期に確立し、更なる内容のレベルアップが図られればと願っている。



(都市環境グループ代表 田中 寛)

〈プログラム11〉 地域の自然と文化、史蹟を訪ね、地域交流を進める

1 推進グループ であいたい

2 具体的な目標

地域の良さを地域内外に発信し交流を図っていくため、地域が誇る自然環境(樹木、花、河川)や歴史、文化遺産、史蹟をウォーキング(サイクリング)で訪ね、より良い地域マップの作成を継続する。

3 取り組み内容

(1) 猪名川町を探訪

- ① と き 平成17年11月29日
探訪先 猪名川町:多田銀山代官所跡地、青木間歩、甘露寺(浄土宗大雲山)、台所間歩、瀬戸間歩、小瓢箪間歩
- ② と き 平成18年2月9日
探訪先 猪名川町:銀山公会堂、金山彦神社、静思館、東光寺、道の駅いながわ、ふるさと館

(2) 川西市などを探訪

- ① と き 平成18年3月10日
探訪先 川西市:市立歴史民俗資料館、黒川公民館(明治8年小学校)、菊炭生産地(茶道用)、一庫ダム(知明湖)、川西市郷土館(銀銅鉛石精錬所)
- ② と き 平成18年4月19日
探訪先 川西市:満願寺、旧満願寺街道、薬師堂(西多田)、多田神社、多太神社、平野湯跡(わが国清涼飲料水発祥の地)
- ③ と き 平成18年5月10日
探訪先 川西市:勝福寺古墳、八坂神社、花宇(華道用・花樹・亜熱帯植物栽培)、絹延小橋(大正期橋標)
池田市:伊居太神社、五月山、大広寺(池田家(広島・鳥取)菩提寺)、池田城跡、呉春(醸造元・江戸期絵師ゆかり)、池田文庫呉服神社

(3) 伊丹市・三田市・宝塚市の街並みを探訪

- ① と き 平成18年6月28日



◀三田市旧九鬼家住宅資料館

探訪先 伊丹市:有岡城跡、工芸センター、伊丹郷町、旧岡田家(鬼貫関係)、石橋家、長寿蔵(白雪資料館・醸造)

- ② と き 平成18年7月19日
探訪先 三田市:三田ほんまち交流館、三田市旧九鬼家住宅資料館、妙三寺、正覚寺、西方寺、三田城跡、天満神社、金心寺、さんだ歴史資料収蔵センター

- ③ と き 平成18年9月7日
探訪先 宝塚市:市立歴史民俗資料館(旧和田家)、小浜工房館、市立小浜宿資料館、毫摂寺(小浜御坊)、旧堀跡、首地藏

4 取り組みの成果

川西市の上加茂地域において、住宅建設前の土地で市による発掘調査現場を見学させて頂いた時、表土数センチメートル下に弥生時代の土器の破片が埋まっているのを見て、歴史を感じた。

JR伊丹から阪急伊丹への街並み、三田本町の商店街、宝塚市小浜宿の街並みの景観保全は、居住者には生活上の不便を強いる形になるかもしれないが、そのおかげで、観光客は美しい街並みを今も見ることができる。

探訪した地域は全体的に歴史が古く、縄文時代—弥生時代—現在に至り、文化遺産・史跡の宝庫と言っても過言でない。それこそ、野を越え山道を歩きの探訪だったが、地域の方々と懇談ができ、土地の歴史の深さを身を感じた。お陰で交流の輪が広がった。今後は、これを糧に地域のマップ作成の継続を念願する。いろいろな出会いがあり、楽しくて有意義な「であいたい」の集まりだった。

5 課題と課題解決に向けた取り組み方策

地域の自然と文化、史蹟を訪ねるといった目的は達成できたものの、収集した情報を地域内外に発信するという点が十分ではなかったため、今後は、情報発信にも力を注ぎ、地域交流の促進を図っていきたい。

(であいたい代表 石原 慶幸)



◀宝塚市毫摂寺

〈プログラム12〉 コミュニティ・ビジネスを通じて地域を活性化する

1 推進グループ 何かいいことクリエートグループ

2 具体的な目標

活力ある元気な街づくりをめざすため、地域の人材、資源、材料などの活用により、地域の住民や消費者の視点に立った新たな産業『人と地域をつなげるビジネス』を提案する。

3 取り組み内容

(1) コミュニティ・ビジネスについて調査

地域密着の「コミュニティ・ビジネス」を文献や視察を通じて調査した。神戸や東京等での事例によると、多様な形態が存在し、地域の隙間を埋める配慮にたった活動支援がなされ、更なる活性化や地域課題の解決を図り、より強固な継続性のある組織・事業として、「有償」で取り組んでおられる。

[視察]

- ①宝塚市逆瀬川駅前商業地域「アピア」を中心に、地域住民の利便性を考えたコミュニティタクシーの実施や、住民参画型イベントの展開等の地域活性化対策を学ぶ。(平成17年10月20日)
- ②神戸市東灘区のNPO法人東灘地域助け合いネットワークから、生活支援・環境保全・文化交流等々の事業についての現況や、会員を募り多くの方が参加されていることをお聴きした(平成17年11月13日、阪神北地域夢会議にて)。ボランティアや寄附金など、物心両面で輪が広がっているのを感じた。
- ③神戸市中央区のNPO法人生活情報支援ネットワークでは、多種にわたった人生の相談に応じ活躍されている。

(2) 公民館について調査

阪神北地域共通の住民コミュニティのありさまを考え、過去からコミュニティの大きな役割を占め住民が慣れ親しんでいる「公民館」にスポットをあてた。そして、各市町での運営・住民参画の実態を調査、特に、川西市・宝塚市の公民館を視察・現状把握を行った。

- ・川西市中央公民館 平成18年7月11日、10月4日、平成19年3月6日
- ・宝塚市中央公民館 平成18年7月31日



4 取り組みの成果

(1) コミュニティ・ビジネスについて

コミュニティ・ビジネスは多岐にわたっており、行政が充分行き届かないサービスを支援・提供することにより、地域の自主的な活動・交流が進むものと考えられ、さらには雇用機会と生き甲斐を生み出し、私たちが目指す「人と地域をつなげる」方向性が見えてきた。

(2) 公民館について

行政(教育委員会)の運営、公民館主催講座等は住民不在のように感じられ、一方、住民登録グループによる利用状況は施設面で限界にきており、公民館法に沿った運営が障害となり、現在では住民ニーズにあわなくなっていると感じた。

5 課題と課題解決に向けた取り組み方策

少子高齢化の社会環境の中、団塊の世代の退職を迎え、更に生涯学習の必要性や地域活動への参画に期待が高まっている。生き甲斐発掘・発見で自己充実をサポートする体制や、世代を超えて共助性を高める施策は必要不可欠と考える。

地域にある「公民館」「自治会館」「学校での空き教室」「民間施設」等を有効活用し、それらの総合ネットワーク化を目指す『地域まちづくりサポートセンター(仮称)』の仕組みを構築し、住民の主体的責任のある活動で、利便性・継続性のある地域にあった事業展開を提案したい。

(何かいいことクリエートグループ代表 合田 共行)

「阪神北地域夢会議」を開催

1 推進グループ(実行委員会) 企画調整部会

2 目的

阪神北地域のビジョン実現に向け、これまでの地域ビジョン委員会活動を確認するとともに、地域の現状・課題を把握し、今後の地域づくり活動のあり方・方向性などを議論する「阪神北地域夢会議」を開催した。

3 取り組み内容

(1) 第1回「阪神北地域夢会議」～語ろう！あなたの夢、おもい、願いを。～

- ① 企画提案グループ 多世代交流グループ、のびのび子育てサポートグループ、いきいきメイクグループ
- ② 開催日 平成17年11月13日
- ③ 場 所 ぷらざこむ1(宝塚市)
- ④ 参加者 170人
- ⑤ 内 容 阪神北地域ビジョン委員会の今後の取組内容について、よりよい活動としていくため、活動グループ単位によるディスカッションで県民の皆さんとともに幅広く議論をした。



(2) 第2回「阪神北地域夢会議」 こどもと元気に遊べるまち～大人が楽しめば、地域が動き出す！～

- ① 企画提案グループ 明るく楽しく健幸創りグループ、ニコニコ水曜会、夢と希望のしくみづくりグループ
- ② 開催日 平成18年2月26日
- ③ 場 所 アステホール(アステ川西6階)
- ④ 参加者 190人
- ⑤ 内 容 習志野市秋津コミュニティの佐竹正実氏に「学校を活かした地域づくり」と題して事例発表いただくとともに、一人でも多くの方が地域づくりに関心を持ち、その輪が広がるためにはどうすれば良いかを共に考えた。



(3) 第3回「阪神北地域夢会議」～私たちの地域づくりは… あなたも主役！ わたしも主役！ みんなで輝こう！～

- ① 企画提案グループ であいたい、何かいいこと創造グループ
- ② 開催日 平成19年2月24日
- ③ 場 所 ぷらざこむ1(宝塚市)
- ④ 参加者 120人



- ⑤ 内 容 地域を知ってもらうため、川西市文化協会会長の丸橋保雄氏に「美女丸伝説」と題して講演していただくとともに、第3期地域ビジョン委員会の2年間の活動を踏まえ、地域ビジョン委員会活動を創造(イメージ)的に発展させるため、地域の多様な世代と議論し交流を図った。

4 取り組みの成果

- (1) 企画調整部会を中心に、ビジョン委員会全体として運営、実施する体制ができた。
- (2) ビジョン委員会活動の継続性を持たせることができた。
- (3) まちづくりに「人」に動いてもらうため、「小学校」を核として活動をしている実体験の発表が参考となった。(第2回)

5 課題と課題解決に向けた取り組み方策

- (1) 開催日や主担当者の早期決定と、参加者募集の方策が課題である。
- (2) より良いまちづくりのため、地域活動団体間が連携していくことを今以上に考える必要がある。
- (3) 委員一人一人が役割を十分に理解し、開会までのプロセスを楽しみ、「あなたと出会えてよかった」と言える活動を今後とも期待したい。

(副委員長 中川 勝子、同 住井 一代、企画調整部会副部長 嶋貴 孝弘)

「多世代交流会」を開催

1 推進グループ

- 実行グループ 多世代交流グループ、のびのび子育てサポートグループ、いきいきメイクグループ
- 企画提案グループ 多世代交流グループ

2 目的

第1分野の行動目標の実現をめざし行っている3つのプログラムによる活動を、広く市民に見てもらい、知ってもらうことにより、理解と広がり期待し、「多世代交流会」を開催した。

3 取り組み内容

- (1) 開催日 平成19年1月28日
- (2) 場 所 ピピアめふ(宝塚市)
- (3) 参加者 80人
- (4) 内 容 「大人も元気、子どもも元気、みんなが元気になる!」をテーマに、「うどん作り体験」「英語であそぼう」「メイク(お化粧)を学ぶ」のイベントや、大手前大学弾き語りサークルによるアトラクションの後、今、あなたが感じている思いを語る「討論会」を実施した。



4 取り組みの成果

- (1) 広く募集したところ、多くの老若男女3世代が集い、多世代交流の場づくりができた。
- (2) 3つのイベントとも賑やかで、参加者自身が自分を演出し、大変楽しい雰囲気だった。
- (3) 討論会では活発な意見交換が行われ、若い世代、おとな世代、それぞれが持っている先入観が取り除かれ、お互いの気持ちが変わりあえる雰囲気になった。

5 課題と課題解決に向けた取り組み方策

今回は、第1分野の自主的なコラボレーションにより実施したが、ビジョンの各行動目標の実現に向け、活動を円滑に、より多くの方に理解してもらうため、将来はビジョン委員会として分野毎に合同企画が実施され、ビジョン委員会活動が充実していくことを期待したい。

(第1分野各グループ代表 八木下 栄一、塚本 洋子、みき しほ)

「地域ビジョン勉強会～男女共同参画社会づくり～」を実施

1 趣 旨

地域ビジョンの実現をめざし、地域ビジョン委員が主体的に地域ビジョンに関して意見交換を行い、各活動グループ等の活動推進の一助とするため、前期の活動を引き継ぎ「地域ビジョン勉強会」を、男女共同参画社会づくりをテーマに、地域ビジョン委員から参加者を募って実施した。

2 取り組み内容

- (1) 開催日 平成18年5月12日、6月21日、9月15日、10月16日、12月13日
- (2) 内 容 少子高齢社会と男女共同参画などをテーマとする講演会を、県立男女共同参画センター所長などを講師に2回(5月12日、9月15日)開催するとともに、参画メンバーによる意見交換を行った。

3 取り組みの成果

- (1) 第1回講演会では、対話と質疑を交えて少人数ならではの勉強会を持つことができた。
- (2) 第2回講演会では、参加してもらいやすい日を設定し、約20人の参加を得ることができた。男女共同参画の国や県の取り組みへの決意とともに、少子化に対応するためには男女が共にその個性と能力を十分に発揮できる環境整備が必要である、という認識を持っていただくきっかけになった。
- (3) 地域ビジョンの推進にとって有意義なテーマについて、ビジョン委員の発案により勉強会を発足させるしくみができたことは大きな成果であった。(地域ビジョン勉強会～男女共同参画社会づくり～代表 西村 茂)

「夢じゃーなる」「活動報告書」を発行

1 編集グループ 広報部会

2 第3期広報部会の基本方針

- (1) 前期からの「夢じゃーなる」を引き継ぎ、100号を目指せる基礎作りに挑戦する。
- (2) ビジョン委員会および各グループの活動予定や活動実績を県民の皆さんに伝えることを主目的とする。
- (3) そのために、分かりやすく読みやすいことを重点にする。
- (4) 広報部員間の情報共有化のために、会合記録は会合後2~3日以内に全員に配布する。

3 取り組み内容

(1) 第3期阪神北地域ビジョン委員会だより「夢じゃーなる」を発行

- ① 第7号発行(平成17年10月)会合回数10回
・第3期ビジョン委員会名簿
・11グループの各グループ紹介や地域活動報告

- ② 第8号発行(平成18年2月)会合回数10回
・多世代交流アンケート中間報告(特集記事)
・5グループの活動報告や予告記事
・2つの地域活動報告
- ③ 第9号発行(平成18年6月)会合回数10回
・2月開催の阪神北地域夢会議報告(特集記事)
・8グループの活動報告
・「ホッとコーナー」連載開始
- ④ 第10号発行(平成18年10月)会合回数11回
・「地域見本市」の予告記事(特集記事。)
・「こどもと地域の環境会議」の予告記事(特集記事)
・6グループの活動報告と1つの地域活動報告
・OB活動グループの活動報告
- ⑤ 第11号発行(平成19年2月)会合回数10回
・「地域見本市」の報告記事(特集記事)
・「こどもと地域の環境会議」の報告記事
・6グループの活動報告



(2) 活動報告書を発行(平成19年3月)会合回数4回

4 取り組みの成果

- (1) 会合を重ねることにより、広報部員間の意思疎通が図れた。
- (2) ビジョン委員全体の動きを把握できた。

5 課題

- (1) 会合回数が多いことで広報部員個人への負担増。
- (2) 広報誌としての「速報性」と「発行回数」との兼ね合いが大きな課題と考える。

(広報部会長 村上 一郎)

◆総会・企画調整部会・ビジョン交流会等の開催結果◆

総会

[開催日] 平成17年4月24日、平成18年3月19日、
平成19年2月24日

[主な議題] ビジョン委員会の運営状況の報告、県民
行動プログラムのとりまとめ
各活動グループの事業計画・活動報告など

企画調整部会

[開催日] 平成17年7月19日(代表・副代表打合せ会)、
①8月18日(拡大)、②9月15日、③10月17日、④
11月15日、⑤12月15日(拡大)、⑥平成18年1月
16日、⑦2月15日、⑧3月15日、⑨4月25日(拡大)、
⑩5月15日、⑪6月15日、⑫7月18日、⑬8月21日、
⑭9月15日(拡大)、⑮10月16日、⑯11月15日、⑰
12月15日、⑱平成19年1月15日、⑲2月15日(拡大)、
⑳3月19日

(注) 拡大部会: 構成員の専門委員の他、県民局支援責
任者、市町オブザーバーが参加

[主な議題] 委員会運営、第2次阪神北地域ビジョン
推進プログラム検討、シンボルプロジェクト・地域
夢会議等の企画・運営、各活動グループの事業計画・
活動報告など



ビジョンパートナーによる
活動発表

ビジョン交流会

[開催日] 平成18年3月19日、平成19年2月24日

[内 容] ビジョン委員同士をはじめ、ビジョンパー
トナー(ビジョン委員OB)などと交流

分野別説明会・分野別会議

[開催日]

分野別説明会: 平成17年5月11日、12日

分野別会議: 平成17年5月26日、27日、6月2日、3日、
7月2日

◆専門委員メッセージ◆

地域での世代間交流を進めていくためには、“互いに適度
な心的距離感を保ち、縦でも横でもないナナメの関係をど
うつくるか”ということがポイントです。どうぞ、次期へも
継続して活動していただければと思います。まずは、委員の
みなさん2年間の活動お疲れさまでした。

第1分野担当 大手前大学 芳田 茂樹

さまざまな活動に関わっている、あるいは始めようと思
っているみなさんにとって、阪神北地域という広域から集
まるビジョン委員会は、出会い・交流の場としての価値も高
いと思います。そのようなことも十分に活用していただ
ければと願っております。

第2分野担当 兵庫県立大学 藤本 真里

2年間、いかがでしたか? あっという間でしたね。テー
マごとにいろいろな方々が集まって、共に考え、行動する。
まさに、“協働”という言葉がぴったりですね。ビジョン委員
会内外での皆さんのますますの活躍を楽しみにしています。

第3分野担当 関西学院大学 大江 瑞絵

ビジョン委員の皆さま、2年間に渡る積極的なご活動、ご苦
労様でした。皆様が実施されてきました活動が県政に生かされ、
兵庫県がより豊かで生活しやすい環境になることを期待して
います。専門委員として、皆様と2年間、楽しい時間が共有でき
多くのことが学びました。本当にありがとうございました。

第4分野担当 甲子園大学 滋野 英恵

◆阪神北県民局長メッセージ◆

ビジョン委員の皆様、この2年間はいかがでしたでしょうか。大変だった、十分な活動ができなかったと不満な面もあったか
もしれませんが、いろいろと勉強になった、いい出会いがあったと満足していただいた方も多いのではないのでしょうか。成果も
大切ですが、活動していくプロセスも大事です。この経験を地域で生かしていただければと思います。大変お疲れ様でした。

阪神北県民局長 北林 泰

阪神北地域ビジョン委員名簿

第1分野 多世代交流グループ

【伊丹市】高濱弘子、三國 勲(広報部員)
【宝塚市】北山 孝子、酒井 富美子、前田 美智子
【川西市】伊藤 紀子、井上 及(副代表)、
八木下 榮一(代表)
【三田市】中川 勝子(副委員長)
【神戸市】江本 享世

第1分野 のびのび子育てサポートグループ

【宝塚市】菅原 美代子、橋本 房子(代表)
【川西市】足立 博子、平井 みどり(広報部員)
【三田市】塚本 洋子(副代表)、長尾 洋子

第1分野 いきいきメイクグループ

【伊丹市】稲垣 勝代、井福 和子、杉坂 宏子、
田辺 春朝(副代表)、
寺本 枝美子(広報部会副部長)
【宝塚市】高橋 美佐子、田坂 優子
【三田市】みき しほ(代表)

第2分野 明るく楽しく健康創りグループ

【伊丹市】川上 充、瀧上 トヨ子(代表)、
三好 勝男(広報部員)、吉原 勝
【宝塚市】池口 安子、小山 一子(副代表)
【川西市】馬場 省三
【三田市】上原 伊津子、親谷 美津子
【猪名川町】伊藤 昇、根本 善弘

第2分野 ニコニコ水曜会

【伊丹市】平田 清治、細見 賢治
【宝塚市】清水 彩乃(副代表)、谷口 義郎(代表)、
速水 悠輔、春井 美保子、
平野 政彦(広報部会副部長)、
松葉 牧子
【川西市】福田 幸彦
【三田市】井上 義規、丸本 久雄、山門 喜久雄
【西宮市】近藤 峰子

第2分野 夢と希望のしくみづくりグループ

【宝塚市】蛭谷 信央、島田 康治、
嶋貴 孝弘(代表・企画調整部会副部長)、竹島 良樹、
山田 慎治、吉田 哲彦(広報部員)
【川西市】太田 宜次(副代表)、友安 正夫

【三田市】小谷 俊仁
【猪名川町】今北 喜代子(広報部員)

第3分野 水グループ

【伊丹市】谷口 利一、西谷 巖
【宝塚市】王見 宣彦(副代表)、白井 儀、
富士田 忠彦
【川西市】牛尾 巧、阪本 富士治、西村 茂(代表)
【三田市】紀野 義成
【猪名川町】大下 章(広報部会副部長)
【西宮市】上村 文雄

第3分野 身近な縁を語り隊!

【伊丹市】庄野 隆二
【宝塚市】金岡 昭弘(副代表)、金岡 伸悟、
篠原 梯三、田川 貴司、
松村 芳郎(広報部員)、森本 敏一
【三田市】一樹 洋彦(代表)

第3分野 都市環境(ゴミ問題・地球温暖化防止)グループ

【伊丹市】田中 實(代表)
【宝塚市】岩城 正巳、片上 昇一、竹谷 輝男、
藤野 暉子(広報部員)
【三田市】衣笠 恵美子(広報部員)、衣笠 安治
【猪名川町】西田 安民(副代表)

第4分野 であいたい

【宝塚市】石原 慶幸(代表)、稲葉 茂穂(広報部員)、
枝松 榮四郎(副代表)、
神内 重明(広報部員)、手束 光子
【川西市】笹部 とも子(副代表)、
助台 三千雄(広報部員)、
丸橋 保雄(広報部員)
【猪名川町】的場 光男(副代表)

第4分野 何かいいことクリエイトグループ

【伊丹市】不破 昌子(広報部員)
【宝塚市】小原 孝子(広報部員)、
村上一郎(広報部会長)
【川西市】岡本 武樹、杉本 和雄(副代表)
【猪名川町】合田 共行(代表)、
住井 一代(副委員長)

アドバイザー・専門委員・オブザーバー名簿

【アドバイザー】小西 康生(神戸大学経済経営研究所長)

中瀬 勲(兵庫県立大学自然・環境科学研究所教授、県立人と自然の博物館副館長)
西浦 道雄(兵庫県国際農業者交流協会会長)

【専門委員】芳田 茂樹(第1分野担当、大手前大学社会文化学部助教授)

藤本 真里(第2分野担当、兵庫県立大学自然・環境科学研究所助手、県立人と自然の博物館研究員)

大江 瑞絵(第3分野担当、関西学院大学総合政策学部助教授)

滋野 英憲(第4分野担当、甲子園大学現代経営学部助教授)

【オブザーバー】[伊丹市企画財政部企画調整室]松井 博(平成17年度)、[伊丹市総合政策部政策室]村上 雄一(平成18年度)、

[宝塚市企画財務部企画調整課]住吉 実、[川西市企画財政部政策室]本莊 重弘、[三田市市長公室都市経営課]

長田 武彦(平成17年度)、[三田市市長公室政策課]鹿嶽昌功(平成18年度)、[猪名川町企画部企画政策課]宮脇 修

問い合わせ先

兵庫県 阪神北県民局 地域ビジョン課

〒665-8567 宝塚市旭町2-4-15 TEL 0797-83-3119 FAX 0797-86-4379